

令和 6 年 5 月 27 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K01158

研究課題名（和文）近代日本の地方都市における社会資本の整備と統治に関する社会・政治地理学的研究

研究課題名（英文）Social capital and governance in second cities in interwar Japan

研究代表者

遠城 明雄 (Onjo, Akio)

九州大学・人文科学研究院・教授

研究者番号：00243866

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、社会・政治地理学の視点から、戦間期日本の地方都市における社会資本の整備と統治をめぐる諸社会集団・階級間の社会・政治過程を明らかにすることにある。なお当初は地域研究を中心に構想していたが、コロナ禍で調査ができない時期があったことから、社会資本と地域社会に関する社会・政治地理学分野の先行研究の検討にも重きを置いた。

特に戦間期の福岡市などにおける、上水道敷設や市街地整備、公設市場など社会資本整備の政治過程を分析することで、この時期の都市形成過程と政治集団及び行政、地域住民の関係性の特徴及びその再編成などに関して、新たな知見を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

福岡市における上水道建設過程の検討によって、政治集団間の対立と行政の関係及び、福岡市と水源地の諸地域との交渉過程などについて新たな知見を得ることができた。特に周辺地域の動向に関して、ダム建設による影響の地域間での差異と地域の一体的な交渉の必要性が対立・矛盾を生じさせていることが明らかとなった。また大正後期の市長選考を検討し、地方都市における行政による統治の変化及び中央と地方の関係などを明らかにした。

以上の知見は、戦間期における地方都市の都市化過程とそれをめぐる権力構造の理解にとどまらず、現代地方都市での公・共・私の協働と矛盾、中央と地方の関係性などを考える際にも有効なものであると思われる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to clarify, from the perspective of social and political geography, the social and political processes among various social groups and classes regarding the development and governance of social capital in second cities in interwar Japan. Although the plan was initially to focus on field studies, due to the coronavirus pandemic, there was a time when surveys were not possible, so I also placed emphasis on considering previous research in the social and political geography related to social capital and local communities. In particular, by analyzing the political process of building social capital such as water supply, urban planning, and public markets in Fukuoka City and other cities during the interwar period, I examined the characteristics of the urban formation process and the relationships between political groups, administration, and local residents. We were able to obtain new knowledge regarding these issues.

研究分野：社会地理学

キーワード：社会資本 地方都市 統治 社会地理学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)1970年代以降、近代的「公共性」の成立とその構造転換などをめぐる議論を契機として、社会生活を支える具体的・抽象的な公共の空間や制度の様式について、多くの研究が積み重ねられてきた。その一方で、こうした公共性のみならず、地域における「中間団体」や「共同的社会関係」、また私的領域での活動も都市における社会的再生産において、一定の役割を果たしてきたことも明らかにされてきた。この成果を踏まえて、ある歴史社会における公・共・私の関係性の特質やその歴史的变化の要因の考察が、人文社会科学の重要な学術課題となった。

(2)1980年代以降の「新自由主義的政策」による社会資本の民営化などの動向を踏まえて、社会資本及び「コモンズ」をめぐる社会・空間的關係への関心が高まった。社会資本の供給をめぐる社会・空間的不平等の拡大という事態の下で、物的な社会資本の代替となる地域の共同・協働的關係や社会的実践などに注目が集まり、都市統治のあり方そのものが問われるようになった。特に、社会のより安定的な再生産のための基礎的条件である社会資本を「コモンズ」として位置づける議論が活発化し、物的な社会資本に加えて、様々な制度及び地域文化を支える日常実践や社会関係なども重要な研究対象となってきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1920年代から30年代にかけての日本の地方都市における社会資本の整備と統治をめぐる諸集団(住民、行政、政治家、地主、資本家、開発業者など)の社会・政治過程を分析し、当該期の公・共・私の関係性の特質とその構造転換を考察することにある。また以上の経験的研究から得られた知見を理論研究にフィードバックすることで、都市統治に関する社会・政治地理学研究的さらなる発展に貢献する。

3. 研究の方法

地方都市(福岡市、下関市、佐世保市など)を主なフィールドとして、各地の公文書館や図書館、国立国会図書館などで文書資料などの収集を実施した。しかし、コロナ禍のため、資料収集の機会がかなり制約を受けたことから、これまで収集してきた諸資料の再検討と、社会・政治地理学分野における社会資本研究の分析を中心に研究を進めることにした。

4. 研究成果

(1)大正期の福岡市における水道施設の建設過程を検討した。特に水源地の集落及びダム建設によって農業用水や道路などに大きな影響を受けることになる、周辺農村における住民の活動や地域間の意見対立、交渉過程などを分析して、上水道という都市向けの社会資本整備が周辺農村部に空間的に不均等な影響を及ぼすことで、農民間に新たな利害対立を生み出していたこと、またこの対立構造を克服して都市側との交渉を有利に進めるための協力の動きが模索されていたこと、交渉過程で農村側が粘り強く要求の見直しを行っていたことなどが明らかとなり、農村社会における共と私の変化を読み取ることができた。

(2)大正後期の福岡市における市長選考過程を検討することで、地方都市での統治・支配構造の変化を明らかにした。従来の市長選考は、市議員からの依頼で地元及び在京の有力政治家や官僚などが、「郷土」出身者を中心に市長候補の推薦や選考などを行う場合が多かった。しかし、市会における政友派と反政友派の対立が強まり、市長の市会運営にも影響が出始めたことなどを背景にして、立花小一郎市長の辞任に伴う後任市長の選考は迷走し、最終的には柴田善三郎福岡県知事に決定が一任され、かつての部下で内務官僚の時実秋穂が市長となった。時実選出の背景には、不毛な対立を繰り返す政治集団に対する市民の不信感の高まりと同時に、東亜勧業博覧会の開催や土地区画整理事業の実施、電車・電灯・ガスの市営事業化要求といった行政の活動領域の拡大などがあつたと考えられる。この問題を通して、当該期の公・共・私の関係性とその転換の理由などについて分析することができた。

(3)福岡市における耕地整理組合事業と土地区画整理事業に関する行政及び地域社会の動向を検討した。福岡県都市計画委員会が区画整理事業を積極的に推進したこともあって、福岡市でも地主組合主体で大規模な区画整理事業が着手され、現在の都市構造の原型が建設された。その一方で、耕地・区画整理事業への公的補助金をめぐる地域間での対立、地主間の対立、離耕農民と農民組合による反対運動などを通して、当該期に「公共性」という問題が人々にどのように認識されていたのか、また公・共・私の関係性がいかに再編されていったのかなどを、ある程度明らかにすることができた。

(4)明治後期の山笠行事(福岡市博多部)の変化に着目して、新たな社会資本の建設が地域住民の意識や「伝統的祭り」に対して及ぼす影響を検討した。路面電車の敷設により、従来のスタイル

で山笠神事ができなくなったことで、地域住民は行事の変更を余儀なくされたが、町および町集合体(「流」)はさまざまな議論を重ね、分裂しながらも、山笠行事を維持した。この過程を通して、山笠を地域文化の「伝統」として認識する集団が生まれた一方で、近代都市に似つかわしくない行事という認識を持つ集団も生まれるようになったことなどが明らかとなった。

(5)フランス語圏の社会・政治地理学における社会資本と地域に関する研究の分析を行った。まず、ヴィダル・ドゥ・ラ・ブラーシュが初期のインド研究において、イギリスによる鉄道網の整備が植民地支配の手段であるのみならず、地域間分業や統治構造、地域住民の公的意識などにも影響を与えることを指摘していた点を明らかにした。次に第二次世界大戦後、シチリア島の労働を分析したルネ・ロッシュフォールが、国家機関などによる社会資本の建設・供給が、既存の社会支配体制に埋め込まれることで、新たな経済成長の基盤とはならず、支配集団と被支配集団の不平等を拡大、悪化させてしまい、支配の再生産につながることを指摘していた点などを明らかにした。以上、フランス語圏地理学の地域研究の現代的意義を批判的に検討することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 8件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 73
2. 論文標題 書評 Paul Vidal de La Blache: Carnet 9. Allemagne et Varia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 218 - 219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.73.02_218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 73
2. 論文標題 書評 S. Kipfer: Le temps et l'espace de la (de) colonisation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 488 - 489
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.73.04_488	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 94
2. 論文標題 書評 野外の地理学者 アルベール・ドゥマンジョン(1872-1940)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 地理学評論	6. 最初と最後の頁 265 - 266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 73
2. 論文標題 書評 デヴィッド・ハーヴェイ『反 資本主義者のクロニクルズ』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊地理学	6. 最初と最後の頁 194 - 196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 158
2. 論文標題 一九一〇年の博多祇園山笠 町・流・博多	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史淵	6. 最初と最後の頁 27 - 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 72
2. 論文標題 書評 M. Dikec: Urban Rage (2017)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊地理学	6. 最初と最後の頁 233 - 234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 72
2. 論文標題 書評 M. Chabrol, et al.: Gentrifications (2016)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊地理学	6. 最初と最後の頁 235 - 237
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akio Onjo	4. 巻 66
2. 論文標題 Sur la 《modernisation》 de pays non-Europeens. L'Asie dans la pensee geographique de Vidal de la Blache	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cahiers de Geographie du Quebec	6. 最初と最後の頁 81-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7202/1099837ar	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠城明雄	4. 巻 161
2. 論文標題 ルネ・ロッシュフォルについて 「労働の地理学」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 史淵	6. 最初と最後の頁 59-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 0件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 遠城明雄
2. 発表標題 1930年代の北九州地域における社会運動
3. 学会等名 日本地理学会 2023年度春期学術大会(東京都立大学)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Akio Onjo
2. 発表標題 On the ideas of ocean and land in the works of Paul Vidal de la Blache
3. 学会等名 IGU Thematic Conference, Milano (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠城明雄
2. 発表標題 ルネ・ロッシュフォル再考
3. 学会等名 人文地理学会(法政大学)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 竹中克行、遠城明雄、高橋誠、水野真彦、中澤高志、川端基夫、大城直樹、武者忠彦、山崎孝史、上杉和央、山村亜希、梶田真、若林芳樹、鈴木康弘	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 290
3. 書名 人文地理学のパースペクティブ	

1. 著者名 公益社団法人日本地理学会編、遠城明雄、村山祐司、箸本健二、松井圭介、梶田真、浅野敏久、今里吾之、秋本弘章、一ノ瀬俊明、小口高、鈴木康弘、松本淳、森島濟、山本佳代子、渡邊真紀子、手塚章、杉浦芳夫、島津俊之	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 844
3. 書名 地理学事典	

1. 著者名 福岡市史編集委員会(遠城明雄・日比野利信)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 福岡市	5. 総ページ数 697
3. 書名 新修福岡市史 資料編近現代3 モダン都市への変貌	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------